

(本文部分拡大)

戦後の衛生士教育の史実を公開

東洋学園大学(江澤雄一理事長)は、「日本初の歯科衛生士学校東洋女子歯科厚生学校(占領期改革シリーズ4)」を5月11日〜10月30日まで公開している。歯科衛生士の誕生から「東洋女子歯科厚生学校」の構想、卒業生による日本歯科衛生士会の創設やその後の活躍までをパネル展示等で紹介。場所は本郷キャンパス4号館6階の東洋学園史料室で、解説書とともに観覧料は無料となっている。

2015年度前期特集展として取り上げた「東洋女子歯科厚生学校」は日本初の歯科衛生士学校として、同大学の前身である東洋女子歯科医学専門学校が1949年5月に併設したもの。

戦後占領期の48年に医療法、医師法、歯科医師法などとともに歯科衛生士法が公布され、49年から国費による歯科衛生士の養成が始まり、北海道、東北、関東、中部、北陸、近畿、山陰、中国、四国、九州の6地区ごとの保健所に歯科衛生士養成所が開設されたが、関東地区のみ私学に委託。その関東地区養成所として業務を担ったのが「東洋女子歯科厚生学校」だったという。そして当時の貴重な資料等から、同学校は国費養成と私費養成を併せ持つ特異な教育機関であったとされている。

存続期間はわずか1年2カ月と短いものの、19人の卒業生の中には日本歯科衛生士会の設立や、

私立学校のアポロ学園歯科衛生士学校(現・アポロ歯科衛生士専門学校)の創設といった、戦後の歯科衛生士教育の発展に貢献してきた史実が残されている。

今回の特集展について、同史料室学芸員の永藤欣久氏は「戦後70年に当たる今年、同大学の前身が携わった歯科衛生士教育の歴史を振り返ってもらうとともに、これまでの日本の歯科衛生士の社会的役割を再認識していただく機会として利用してもらえればと思っています」とコメントした。

また、同史料室の常設展示では、約2800点の資料を用いて同大学の歴史を紹介している。

※アポロ歯科衛生士専門学校の創立者について
 正) 東洋女子歯科医学専門学校を卒業した歯科医師
 誤) 東洋女子歯科厚生学校を卒業した歯科衛生士

日本初の衛生士学校

東洋学園大学 で特集展を開催中



①東洋学園史料室の中に設けられた、「東洋女子歯科厚生学校」の特集展示の一角



②当時の厚生学校で使用したデンタルボックスや教科書、卒業証書も展示されている



③東洋学園史料室の様子。同大学の前身・東洋女子歯科医学専門学校の歴史も、常設展示として紹介されている
 ④戦後占領期のデンタルボックス。器具類を含め、同学校の臨床実習で使用したもの
 ⑤卒業生の歯磨による回転車や磁器式レース(研磨器)などさまざまな歯科器材が展示されている

戦後の衛生士教育の史実を公開

東洋学園大学(江澤雄一理事長)は、「日本初の歯科衛生士学校東洋女子歯科厚生学校(占領期改革シリーズ4)」を5月11日〜10月30日まで公開している。歯科衛生士の誕生から「東洋女子歯科厚生学校」の構想、卒業生による日本歯科衛生士会の創設やその後の活躍までをパネル展示等で紹介。場所は本郷キャンパス4号館6階の東洋学園史料室で、解説書とともに観覧料は無料となっている。

2015年度前期特集展として取り上げた「東洋女子歯科厚生学校」は日本初の歯科衛生士学校として、同大学の前身である東洋女子歯科医学専門学校が1949年5月に併設したもの。

戦後占領期の48年に医療法、医師法、歯科医師法などとともに歯科衛生士法が公布され、49年から国費による歯科衛生士の養成が始まり、北海道、東北、関東、中部、北陸、近畿、山陰、中国、四国、九州の6地区ごとの保健所に歯科衛生士養成所が開設されたが、関東地区のみ私学に委託。その関東地区養成所として業務を担ったのが「東洋女子歯科厚生学校」だったという。そして当時の貴重な資料等から、同学校は国費養成と私費養成を併せ持つ特異な教育機関であったとされている。

存続期間はわずか1年2カ月と短いものの、19人の卒業生の中には日本歯科衛生士会の設立や、

私立学校のアポロ学園歯科衛生士学校(現・アポロ歯科衛生士専門学校)の創設といった、戦後の歯科衛生士教育の発展に貢献してきた史実が残されている。

今回の特集展について、同史料室学芸員の永藤欣久氏は「戦後70年に当たる今年、同大学の前身が携わった歯科衛生士教育の歴史を振り返ってもらうとともに、これまでの日本の歯科衛生士の社会的役割を再認識していただく機会として利用してもらえればと思っています」とコメントした。

また、同史料室の常設展示では、約2800点の資料を用いて同大学の歴史を紹介している。

